

後腹膜浸潤による痛み・苦痛の緩和

Palliation of pain and symptom associated with retroperitoneal invasion

浜松医科大学泌尿器科学講座教授 三宅 秀明 Hideaki Miyake

Key Words

■後腹膜浸潤 ■悪性腫瘍 ■疼痛 ■尿路症状

Summary

泌尿器，消化器および婦人科領域などのさまざまな悪性腫瘍が原因で後腹膜浸潤に伴う痛み，苦痛は起こりうるが，その頻度は決して低いものではない。後腹膜腔には腎臓，尿管および膀胱により構成される尿路が存在し，悪性腫瘍による浸潤が進行すれば血尿，尿路閉塞，腎後性腎不全，尿路感染症および膀胱部痛などのきわめて多彩な尿路症状の発症が必発である。また，これらの尿路症状を緩和するためには，カテーテル留置などをはじめとした高度かつ専門的な泌尿器科的処置を適切なタイミングで施行することが求められる。以上より，後腹膜浸潤に伴う痛み，苦痛に対しては，一般的ながん疼痛に対する治療はもちろんのこと，尿路症状に対する専門的な処置にも精通することが重要である。本稿では，悪性腫瘍の後腹膜浸潤に伴って発症しうる特有の症状に焦点を当て，それらに対して臨床医がとるべき対応策を実践的な視点から解説する。

はじめに

後腹膜浸潤の原因となる悪性腫瘍としては，泌尿器系がん(腎細胞がん，腎盂・尿管がん，膀胱がん，前立腺がんなど)に加え，消化器系がん(胃がん，膵がん，大腸がん，直腸がんなど)および婦人科系がん(子宮がん，卵巣がんなど)が挙げられる。これらのがんは，直接浸潤のみならずリンパ節転移，播種，ダグラス窩転移などをきたすことで痛み，苦痛の原因となりうる。また，後腹膜腔に存在する主な臓器は腎臓，尿管および膀胱から構成される尿路であるため，悪性腫瘍の後腹膜浸潤が進行すると多彩な尿路症状が必発するが，

それらに対しては専門的な泌尿器科的処置を要することが少なくない。したがって，後腹膜浸潤に伴う痛み，苦痛に対して適切な処置を施すためには，一般的ながん疼痛マネジメントとともに尿路症状対策に精通することが必要となる。

本稿では，悪性腫瘍の後腹膜浸潤が原因として発症する症状のうち，疼痛に関する一般的な記載は最小限に止め，尿路に関連した諸症状に焦点を当て，その症状別に病態生理，診断および治療法などを実践的かつ多角的に解説する。

疼痛

悪性腫瘍の後腹膜浸潤により発症する疼痛に対